

令和7年度 学校評価結果報告

和光市立本町小学校

1. 評価の目的（埼玉県学校評価実施指針に基づく）

本評価は、学校教育法第42条および同法施行規則等に基づき、以下の目的を達成するために実施するものである。

「学校が、自らの教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果に基づき改善を図ることにより、教育水準の向上に努めること。また、評価結果を公表し、保護者・地域住民等の理解と協力を得て、家庭・地域との連携を深めることで、より開かれた学校づくりを推進する。」

— 埼玉県「学校評価の進め方」より引用・改編

2. 令和7年度 本校の学校経営方針

本年度、本校では以下の経営方針に基づき教育活動を展開してきた。評価にあたっては、これらの目標の達成度を検証の軸とする。

- **学校教育目標：**「かがやく子 ゆたかな子 たくましい子」
- **目指す学校像：**「主体的に生き生きと活動する心豊かな子供を育む学校」
- **重点目標：**
 1. 授業重視：豊かな体験活動を通して生き生きと学ぶ
 2. 授業重視：ICTを活用して主体的に学びを深める
 3. 道徳重視：子供に寄り添い一人ひとりの思いを大切にする
 4. 研修重視：教師が切磋琢磨して協働する
 5. 連携重視：地域開かれた地域から愛される学校

3. 評価の実施プロセスとスケジュール

令和7年度は、学校運営協議会（学校関係者評価委員会）との「熟議」と「視察」を核とした評価体制を構築した。

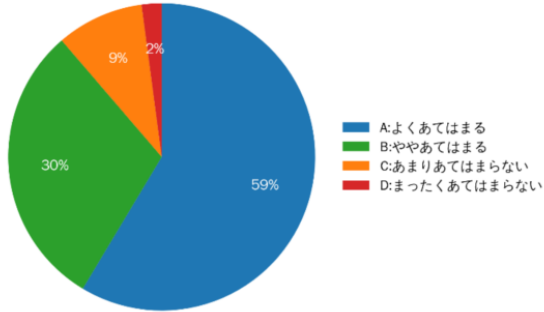
時期	実施内容	対象・方法
11月	評価項目の説明・承認	第3回学校運営協議会（11月21日実施）にて、評価項目を提示・協議
11月-1月	委員による学校視察	学校運営協議会委員による授業・行事・環境の巡回チェック
12月	自己評価及び各種アンケート実施	児童・保護者・教職員（自己評価）
2月	関係者評価の実施	第4回学校運営協議会（2月18日実施）にて、自己評価及びアンケート結果等の分析報告、委員による提言の集約
2月後半 3月	次年度方針の策定	職員会議にて令和8年度学校経営方針案を提示、案を受け校務分掌各部会において、次年度の方策を検討。 第5回学校運営協議会（3月11日実施）にて、評価結果を反映した令和8年度学校経営方針の提示と承認

4. 評価結果

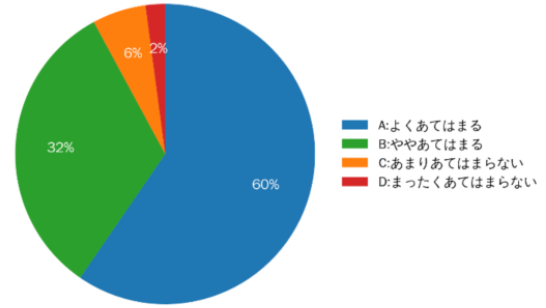
(1) アンケート結果

①児童アンケート（学習・生活への意識）

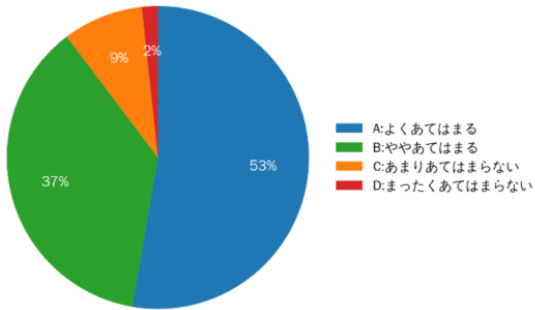
①学校生活は楽しく、学校が好きだ。



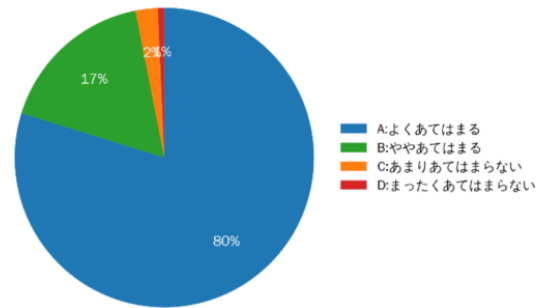
②授業に一生懸命取り組んでいますか。



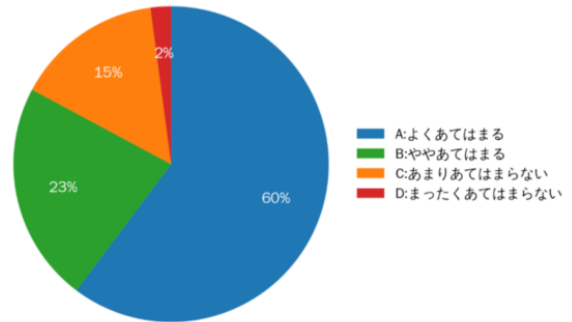
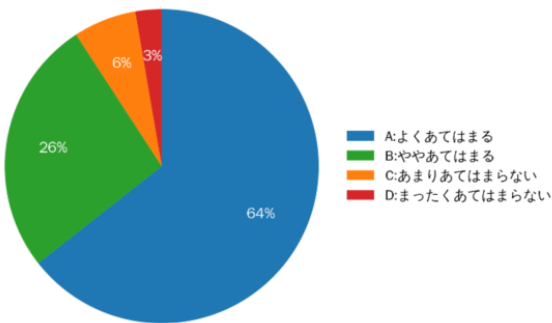
③進んで挨拶し、丁寧な言葉遣いができる。



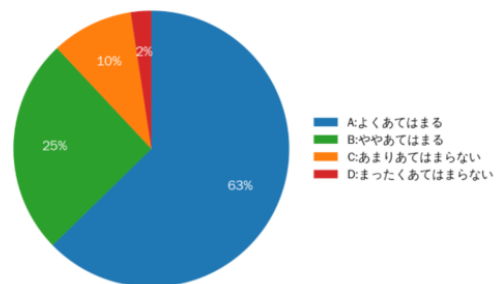
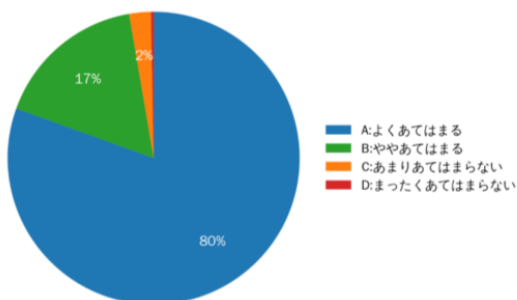
④友達と仲良くし、友達を大切にしている。



⑤先生は、困った時にいつでも相談にのってくれる。⑥体育の授業、外遊びなど、進んで運動している。

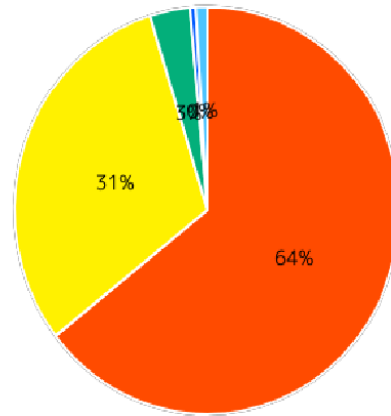
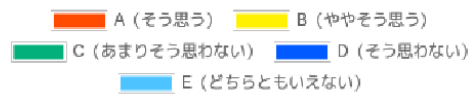
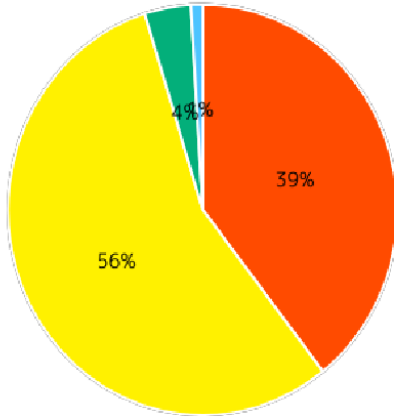
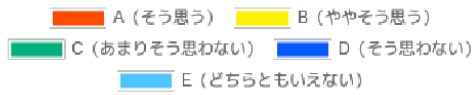


⑦給食は、好き嫌がなく、残さないで食べている。⑧交通事故やケガなどの安全に気をつけて生活している。

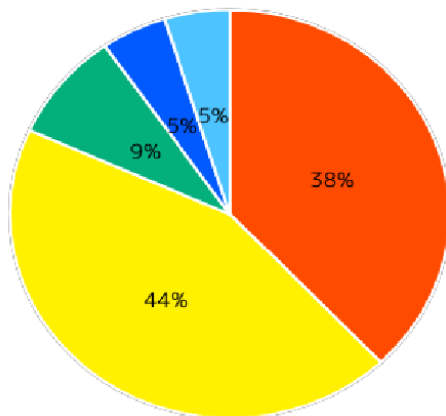
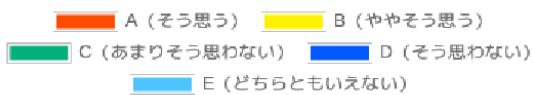


② 保護者アンケート（学校運営・信頼度）

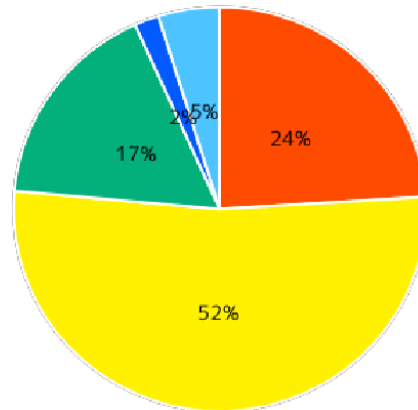
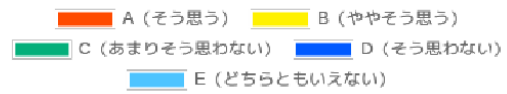
- ① 各種便りやホームページに掲載された学校教育目標や教育方針は分かりやすいですか。 ② 学級通信・さくら連絡網等における、教育活動の情報は適切に配信されていますか。



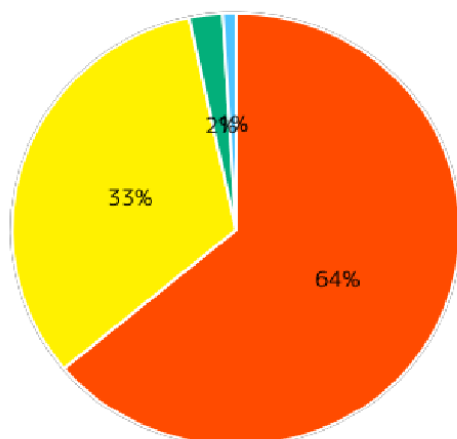
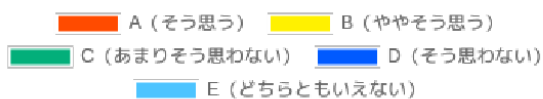
- ③ お子さんは授業は楽しくて、わかりやすいと話していますか。



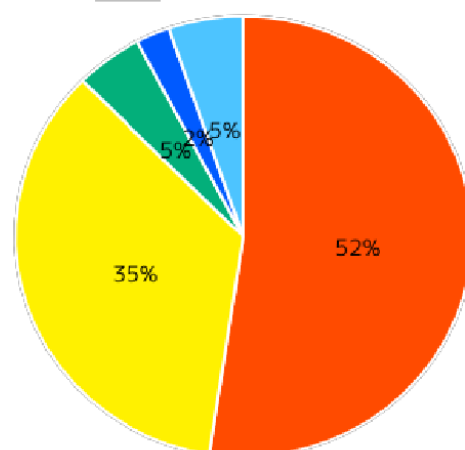
- ④ お子さんは進んであいさつし、ていねいな言葉遣いができていますか。



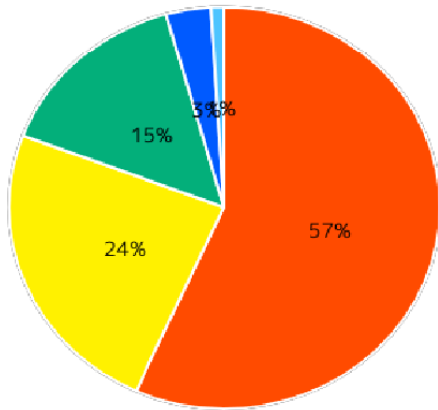
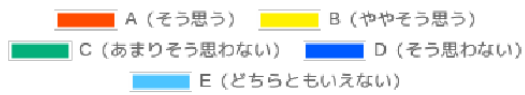
- ⑤ お子さんは友達となかよくし、友達を大切にしていますか。



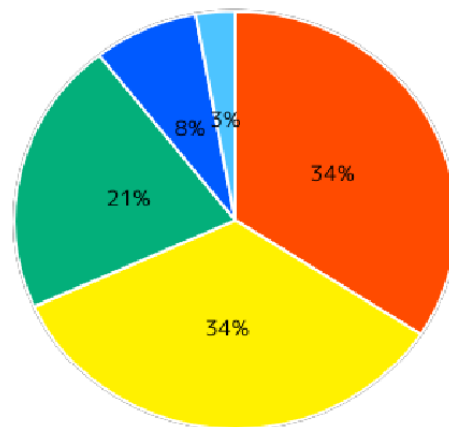
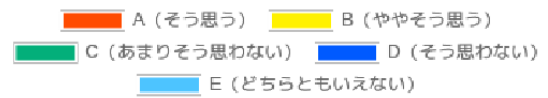
- ⑥ 先生は、困ったときにいつでも相談に乗ってくれますか。



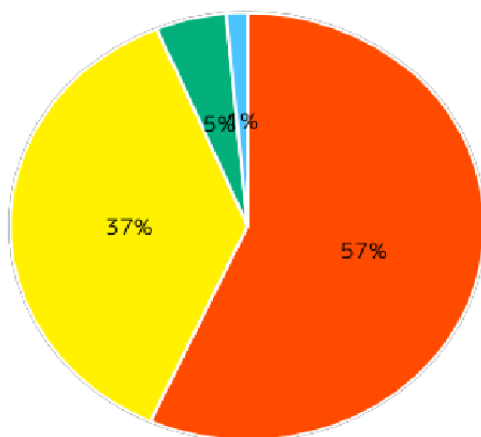
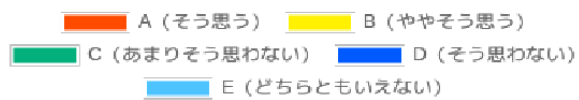
⑦ お子さんは体育の授業や、外遊びなど、進んで運動していますか。



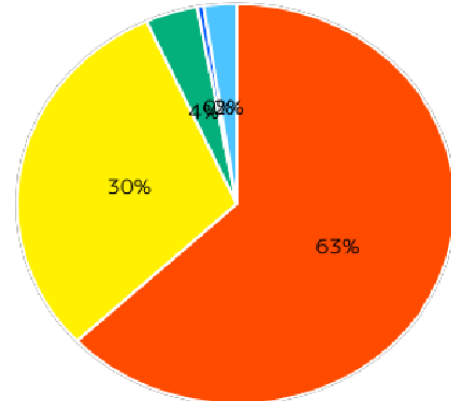
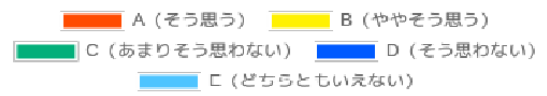
⑧ お子さんは自分から進んで家庭学習に取り組んでいますか。



⑨ お子さんは交通事故やケガがないように安全に気を付けて登下校していますか。授業参観・懇談会・個人面談は、適切に設定されていると感じていますか。



⑩ お子さんは自分から進んで家庭学習に取り組んでいますか。



(2) 教職員自己評価（組織的な取組）

- A: そう思う(良い) B: ややそう思う(おおむね良い)
 C: あまりそう思わない(やや課題あり) D: 全くそう思わない(課題あり)

項目		A	B	C	D
1 学校経営・運営について					
①学校教育目標や教育方針、重点目標は、今日的な教育課程を踏まえ、保護者や地域の方々の願いに沿うものになっていたか。		10	12	0	0
②自分は本年度の重点と具現化のための手立てを意識して学校運営に参画していたか。		7	15	0	0
記述					
2 かがやく子の育成(確かな学力の育成)					
①学力向上プランを意識して、日々の教育活動に取り組んでいたか。		5	13	3	0
②児童にとって分かりやすい授業を展開できていたか。		2	19	0	1
③児童の学習の取り組みに対して適切な評価をし、指導に活かしたか。		9	11	0	2
記述		<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究が足りず、早く終わった子への手立てが十分ではなかった。 ・学力差があるが定期的に見直しをして、行うようにした。 			
3 ゆたかな子(豊かな心の育成)					
①道徳性の育成、道徳的実践を促す指導が計画的に進められたか。		4	15	1	1
②あいさつのできる子になるように指導したか。		11	9	2	0
③「本町小の決まり」「学習のやくそく」を守るように指導したか。		12	9	1	0
記述		<ul style="list-style-type: none"> ・まずは教師から挨拶を行い挨拶が大切なものと指導した。 ・声かけはしてきたが、学校全体での取り組みが必要。代表委員会だけの取組だけでなく、有志や高学年が参加するなどの取組があるとよい。 ・挨拶は心掛けた。 			
4 たくましい子(健やかな体の育成)					
①児童が外で元気よく遊べるように取り組んだか。		8	12	1	1
②体力向上に向けた取組を行うことができたか。		8	9	3	1
③児童の生活リズムを整えるように工夫されているか。		7	13	2	0
記述		<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に積極的に外に出て、児童と遊んだ。 ・外でたくさん遊んだ。 			
5 保護者・地域との連携(家庭・地域の教育力向上)					
①教育活動を保護者や地域に積極的に公開したか。		8	10	1	2
②個人面談を保護者と積極的に話し合いをもつのに役立てたか。		10	8	0	3
記述		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃のことや家庭での様子、さまざまなことテーマに話をするようにした。 			
6 「主体的に生き生きと活動する心豊かな子供を育む学校」について(目指す学校像)					
①豊かな体験活動を通して生き生きと学ぶ教育活動を行うことができたか。		7	13	1	0
②ICTを活用して主体的に学びを深める教育活動を行うことができたか。		6	13	2	0
③子供に寄り添い一人ひとりの思いを大切にする教育活動を行うことができたか。		11	10	1	0
④教師同士が切磋琢磨して協働する教育活動を行うことができたか。		7	14	0	1
⑤地域に開かれた地域から愛される学校になるための教育活動を行うことができたか。		8	12	2	0
記述		<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加していただいたり、鮮魚タッチなど地域の人が参加していることが多いと感じる。 			

事務・養護

(3) 学校関係者評価 (学校運営協議会の提言)

①学校教育目標や教育方針、重点目標は、今日的な教育課程を踏まえ、保護者や地域の方々の願いに沿うものになっていたか。



■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

②自分は本年度の重点と具現化のための手立てを意識して学校運営に参画していたか。



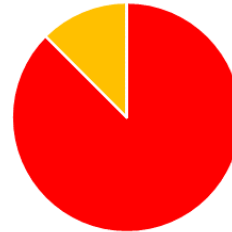
■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

③学力向上プランを意識して、日々の教育活動に取り組んでいたか。



■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

④児童にとって分かりやすい授業を展開できていたか。



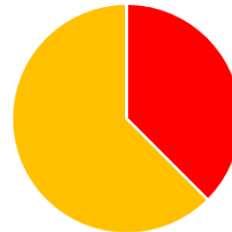
■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

⑤児童の学習の取り組みに対して適切な評価をし、指導に活かしたか。



■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

⑥道徳性の育成、道徳的实践を促す指導が計画的に進められたか。



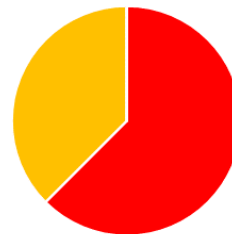
■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

⑦あいさつのできる子になるように指導したか。



■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

⑧「本町小の決まり」「学習のやくそく」を守れるように指導したか。



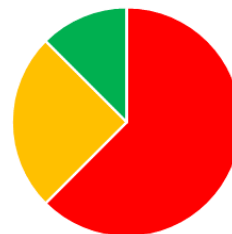
■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

⑨児童が外で元気よく遊べるように取り組んだか。

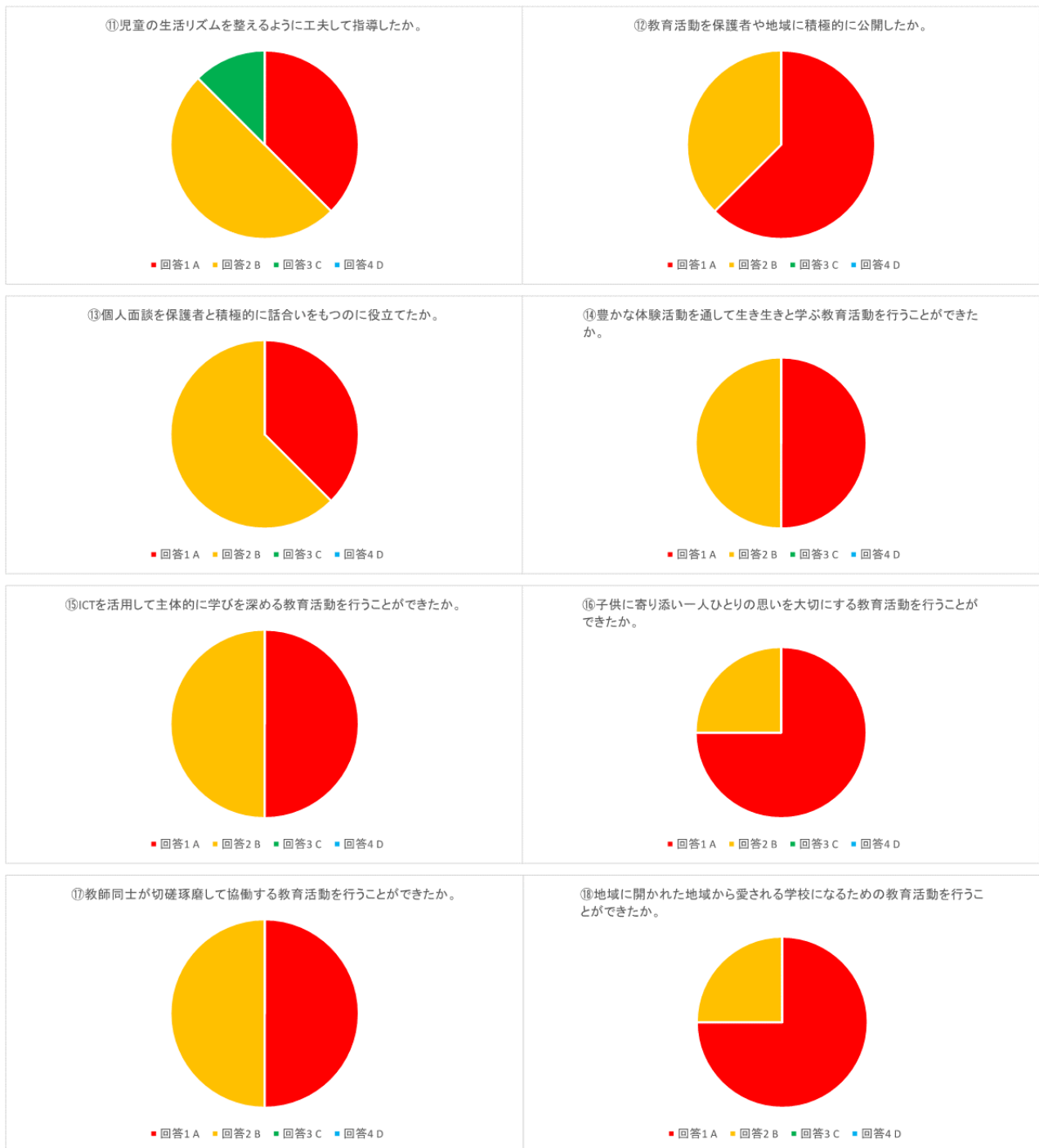


■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D

⑩体力向上に向けた取組を行うことができたか。



■ 回答1 A ■ 回答2 B ■ 回答3 C ■ 回答4 D



11月から1月にかけての視察、および2月の集計報告を受けた委員からの主な意見を記載する。

成果点

- ・学校教育目標は、子供達の心と体の健やかな育成を考えた目標になっていた。
- ・保護者や地域関係者が、学校運営のサポートをする機会が設定されていた。
- ・家庭科など授業で直接子供達と交流する機会があった。

- ・登下校の際、顔見知りの子供達はよく挨拶をしていた。
- ・校舎周りの整備日々進んでいった。

改善点

- ・学力向上に関しては、できている児童への手立てについて、与える課題の質や選択肢の幅について検討し、教員研修を通して指導力向上につなげていけるとよい。
- ・道徳性の育成については、現行の縦割り班をさらに充実させ、「縦割りオリエンテーリング」のような実践的な活動を復活させてもよいのではないか。
- ・⑨⑩⑪の「たくましい子（健やかな体の育成）」に関しては、課題がある。体力向上の取組は校内での様子が見えにくいため、保護者や地域の方に向けての丁寧な説明をしていく必要がある。
- ・令和8年度の体力向上の取組については、体育部を中心に内容を検討し、確実に実行していくとのことだが、体を動かすといっても児童がそれぞれ持っている運動のイメージは違う。画一の運動を示すのではなく、児童が選べるように多様な運動機会を設定していくべきである。
- ・体育朝会の持ち方については、全校児童が楽しく参加できる種目を工夫し、異年齢で活動する機会を増やしてもよい。

5. 分析

①改善が必要と考えられる点について

・学習への取組みに関する項目（かがやく子）

保護者アンケート ⑧ A + B → 68%

教職員自己評価 2-① C → 3名

・あいさつ・言葉遣い・道徳性に関する項目（ゆたかな子）

児童アンケート ③ B + C → 46%

保護者アンケート ④ A + B → 76%

教職員自己評価 3-① C + D → 2名

3-② C → 2名

・運動習慣に関する項目（たくましい子）

児童アンケート ⑥ C → 15%

保護者アンケート ⑦ A + B → 81%

職員自己評価 4-② C → 4名

上記について、いずれも学校教育目標の関連項目であるが、児童・保護者の評価が比較的低く、自己評価としても取組が不十分であったとの回答があり、早急な改善が必要である。

学習については、「やることは分かっているが、自分から進んで取り組むことが難しい」という実態がうかがえる。また、あいさつや言葉遣いについては、学校内では意識できていても、場面や相手によって差があることが課題である。運動習慣についても、運動の必要性は理解しているものの、日常的な運動量の確保が十分でない状況が見られた。

②今後の改善に向けた取組について

これらの課題を踏まえ、次のような取組を進めていく。

・授業改善及び学習の習慣化（校内・家庭での取組）

授業での学習の意欲向上や、家庭学習が継続して定着していくためには、単に課題をこなすことだけでなく、児童自身が「学ぶことの楽しさ」「学ぶ

ことの必要性」「自分の興味や関心」を実感できることが大切である。児童が自発的に学習に取り組めるようになることを目標に、学習環境の改善に努めていく。

家庭学習としては、家庭と連携しながら、「毎日続ける」ことを意識した短時間学習を基本としつつ、学年や個々の実態に応じた内容や量を工夫していく。また、興味・関心や学習の到達度に応じて選ぶことができる選択式の課題を取り入れることで、「やらされる学習」から「自分で選び、進んで取り組む学習」への転換を図る。

日頃の授業改善にも力を入れ、授業の中で「分かる」「できる」「もっと知りたい」と感じられる場面を増やしていく。学校での学びが家庭学習につながり、学ぶことへの意欲が高まるよう、授業と家庭学習の一体的な充実を目指していく。

・あいさつ・言葉遣いの指導の充実（校内での取組）

あいさつは、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションの第一歩であり、集団生活を円滑に進めていくための基礎となる。日頃の声かけや指導に加え、児童が主体的にあいさつの大切さを考え、実践できる取組を重視していく。

令和7年度は児童会を中心に「あいさつリレー」を実施し、全校であいさつ運動の啓発に取り組んだ。令和8年度は、さらに学年や学級の枠を越えてあいさつの輪を広げることで、進んで声をかけようとする意識や、相手を意識したあいさつの大切さを実感できるよう工夫していく。

児童会を中心としたあいさつ運動を継続するとともに、授業や学校生活の場面を想定したロールプレイなどを取り入れながら、「いつ・どこで・誰に対しても」適切なあいさつや言葉遣いができる力の育成を進めていく。児童一人一人が気持ちのよいあいさつを自然に交わせる学校づくりを目指す。

・運動機会の拡充（校内での取組）

全国体力・運動能力調査（全国体力テスト）の結果から、全国平均においても「運動が好き」と答える児童の割合が必ずしも高い状況とはいえ、運動に親しむ意識や運動習慣の定着が全国的な課題となっている。

こうした状況を踏まえ、児童が日常的に体を動かす機会を意図的に確保し、運動の楽しさを実感できる取組を進めていく必要がある。

そこで、体を動かす楽しさを感じられるよう、休み時間の運動用具の整備を進めるとともに、授業の合間などに取り組める短時間運動を工夫して取り入れていく。また、校内の体力向上の取組として、縄跳び運動を継続的に行い、基礎的な体力や運動技能の向上を図る。さらに、外遊びの励行を通して、児童が自然な形で体を動かせる環境を整え、遊びの中で体力が向上するような学校づくりを目指す。

これらの取組を通して、日常生活の中で無理なく運動に親しみ、運動習慣の定着と体力向上につながるよう支援していく。

6. 令和8年度 学校経営方針への反映

評価結果および学校運営協議会からの提言を反映し、次年度の学校経営方針を以下の通り設定する。

令和8年度 学校経営方針（案）

1. 学校教育目標

本校の伝統を継承し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

かがやく子（知）：自ら問いを見つけ、深く考え、学び続ける子
ゆたかな子（徳）：自分と他者を大切にし、進んで心を通わせる子
たくましい子（体）：目標を持って、自ら心身の健康をつくる子

2. めざす学校像

【キャッチフレーズ】

「自ら動き、共につくる ～未来を拓く『本町プライド』の育成～」

全職員の指針：

児童が「主役」になれる場を、教職員と地域が「共創」する学校

中央教育審議会の論点整理を見据え、予測困難な社会を生き抜くために、児童が「受け身」から「主体（エージェント）」へと変容する姿を目指す。高い学力基盤を活かし、それを社会や生活に繋げる「生きた学び」を展開する学校を構築する。

3. 学校教育目標を具現化するための4つの柱

和光市教育振興基本計画の基本理念を基軸に、本校の課題を解決する4つの柱を設定します。

① 「自ら学びを拓く」学力育成（知：かがやく子）

○主体的な学びへの転換（自律的な学び手の育成）：

日々の授業を「主体的・対話的で深い学び」へと改善し、特に授業終末の「振り返り」を充実させます。自分の理解度や課題をメタ認知することで、次時まで「家庭で何を学ぶべきか」を児童自身が考え、選択・実行できる自律的な学習習慣を確立します。

○探究的な学びの推進（校内研修の充実）：

「主体的・対話的で深い学びの実現」を研修の柱に据え、国語科を中心とした研究を推進します。言葉を通じて思考を深め、自ら問いを立てて解決していく探究的なプロセスを重視した授業づくりを行い、全教科における学びの質の向上を図ります。

② 「自ら心を繋ぐ」豊かな心（徳：ゆたかな子）

○「進んであいさつ」の日常化：

指示される挨拶から、相手を認め合うコミュニケーションとしての挨拶へ。児童会活動を活性化し、児童が主体となって「挨拶で繋がる本町小」をプロデュースすることで、自己有用感と規範意識を醸成します。

○地域社会に学び、未来を描く：

地域住民や専門家との交流を教育課程に組み込み、多様な価値観に触れることで、自分たちの学びが社会と繋がっている実感を育てます。

③ 「自ら健やかを創る」心身の健康（体：たくましい子）

○「進んで運動・外遊び」の習慣化：

児童が休み時間の遊びや運動イベントを自ら企画する場を設け、運動を「課されるもの」から「自ら楽しみ、心身を整えるもの」へ意識変革を図ります。

○「健康マネジメント能力」の育成とウェルビーイングの向上：

変化の激しい社会を生き抜くために必要な、困難に直面しても折れない「粘り強さ」や、失敗から立ち直る「復元力（レジリエンス）」を育みます。自身の生活習慣（睡眠・食育・メディア利用）を客観的に捉え、心身のコンディションを自己調節（セルフケア）できる能力を育成することで、生涯にわたるウェルビーイングの基盤を築きます。

④ 「共に育む」 地域協働・学校経営（社会に開かれた教育課程）

○コミュニティ・スクールの深化：

学校・家庭・地域の三者が「目指す子供像」を共有し、地域の豊かな人的・物的資源を教育活動に積極的に取り入れます。地域との協働を通じて、児童の主体性が発揮される「本町パートナーシップ」を確立します。

○教職員の協働的マネジメント：

全職員が同じ方向を向き、対話を通じて課題解決を図る組織文化を醸成します。和光市教育委員会の指針に則り、校内研修の研究成果を地域にも公開・共有しながら、学校・家庭・地域が一体となって「未来を拓く児童」を育成します。